

2-3. 試験導入校

試験導入校の応募状況と結果

当初小中あわせて**15校枠で募集**した試験導入校に**69校が申請**

最終的に**枠を2倍に広げて31校**で実施（中核市全校規模なみ）



さまざまな試験導入校の申請理由

校務ICT化を自校で進めているICT化先進校から、学校の規模（超大規模、超小規模）、地域事情、保護者対応等、多くの深刻な課題を解決のために申請してくる学校等、申請理由は様々



選出した試験導入校の役割

試験導入校の役割

試行・テストベッド
実証実験校

成功事例・模範
モデル校

学校特徴×課題分類

校務課題 深刻化

大規模校

小規模校

ICT化先進校

ICT化後進校

小中一貫校(施設一体型)

小中一貫校(データ連携型)

教育ICT(タブレット)モデル校

副校長設置校

2-4. “P-D-C-A” 運用サイクル

本事業のサービスマネジメントの特徴

本事業では**1.66万人のユーザ**(教職員・教育委員会)が**24時間365日**で**サービス**を利用

端末は1.2万台 + プリンタ・スキャナ等の周辺機器や、メール等の通信手段も提供⇒**稼働管理**

毎月5~6,000万のインターネット利用があり、その全てのアクセスにおいてウイルス感染・情報漏えいチェック、校務においてはデータの改ざん・データベースのアクセス等監査証跡の仕組みで、データの

『信頼性』・『安全性』・『効率性』・『有効性』を確保⇒**データ保護のトータル管理**

管理の視点

各サービスを誰が、
何時に、何回利用？



サービス利用者数
16,605名

各PCがどのソフト・デバイスを何回
利用？ウイルス感染はない？



校務パソコン
12,257台

どのPCがどんなサイトを
みたか？どんなデバイスを
接続したか



インターネットアクセス数
7,270万回/12月

SLA：サービスレベル基準の合意

SLAは、可用性(システムの壊れにくさ)、利便性(サービスの利用のし易さ)、迅速性(障害時の対応、復旧の早さ)で6指標



可用性

〈稼働率〉

24時間365日運営

99.9%以上

計画停止時間

月**10時間以内**

利便性

〈電話応答率〉

開庁日8~18時営業

97%以上

〈問題解決率〉

24時間以内

95%以上

迅速性

〈障害復旧予定時刻の報告〉

2時間以内

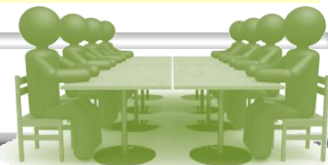
〈障害復旧時間〉

4時間以内

運用定例会・レポーティング・改善提案

毎月月初に運用定例会を開催、学校での各種サービス利用状況～要望、課題等の報告と、改善策の提案を受けてサービス内容の定期的な見直しを実施

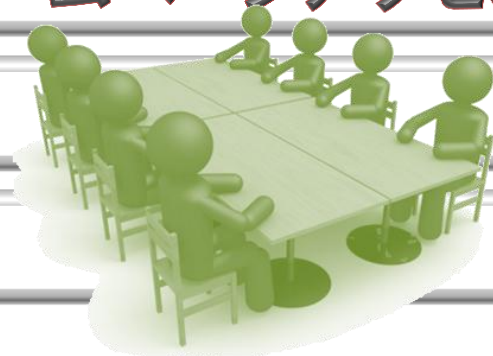
コールセンターでのインシデント報告



インフラ(PC・ファイルサーバー・ウイルス対策の利用率)

校務支援サービス利用状況・メール/ホームページアクセス

校務ICT化に関する提案



障害報告と再発防止策の報告

3

部

事業定着化フェーズ

試験導入校 1年目の成果(効果検証)

1. 効果検証・実績と成果
2. 今後の展望

H23年度

H24年度

H25年度

H26年度

H27年度

3-1. 効果検証

- ・実績と成果

本事業目的とKPI

※Key Performance Indicator : 重要業績評価指標

1 学校教育の質の向上、学校経営の
効率化・高度化を図る

2 学校から保護者・地域への
情報発信を促進する

3 教員のICTリテラシーの向上
と情報セキュリティの強化

事業目的

ICTの活用により教員が児童・
生徒と向き合う時間を増やす

KPI

教員一人あたり

100時間/年

本事業のサービスの導入前/導入後

Before

After

グループウェア

1. 連絡掲示板
2. メール(個人連絡)
3. 会議室
4. 施設備品予約
5. 予定表
6. 週案・時数管理
7. 学校日誌・各種日誌



校務支援

1. 出欠管理
2. 成績処理
3. 通知表作成
4. 指導要録作成
5. 調査書作成
6. 名簿作成
7. いいところみつけ
8. 健康診断
9. 体力テスト



コミュニケーション

1. 学校ホームページ作成
2. 保護者メール送信



Before & After

校務支援ICT活用事業～グループウェア～

- 『メール』『連絡掲示板』『会議室』『書庫』等による**情報展開・情報共有**をはかる事で、**職員朝礼や職員会議の開催回数を減らしたり、会議時間の短縮により校務効率化を実現**

Before



After

数分の朝礼で
すぐに教室へ...

